

三六災害60年



DATE:令和3年6月23日

三六災害60年実行委員会

三六災害60年事業の取り組みについて

概要

令和3年6月13日（日）に予定していましたが「三六災害60年シンポジウム」は延期となりましたが、シンポジウム以外にも様々な取り組みを行っています。今回は、その中のいくつかの取り組みについてご紹介します。

三六災害60年関連の取り組み

- ①シンポジウム当日に上映を予定しておりました「三六災害記録映像」「ビデオレター」を下記ホームページにて公開します。（別紙1）
<https://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/36saigai60/index.html>
- ②三六災害60年パネルを上記ホームページに公開します。（別紙2）
- ③三六災害に関する「自然災害伝承碑」をウェブ地図「地理院地図」に公開します。（別紙3）
- ④三六災害で犠牲になられた方々のご冥福を祈り、慰霊献花式を開催します。（別紙4）

取材について

1. 配布先

駒ヶ根市記者クラブ、伊那記者クラブ、飯田市記者クラブ

2. 問合せ先

<①三六災害映像関連> <②三六災害60年パネル> <④慰霊献花式>

国土交通省中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

副所長 大森 秀人(おおもり ひでと) TEL:0265-81-6411

事業対策官 丹羽 隆志(にわ たかし) TEL:0265-81-6415

<③自然災害伝承碑関連>

国土地理院関東地方測量部

防災課長 住谷 勝樹(すみや かつき) TEL:03-5213-2071

【三六災害記録映像】
三六災害当時の様子をご覧ください
ただけます。
令和3年6月25日(金) 公開



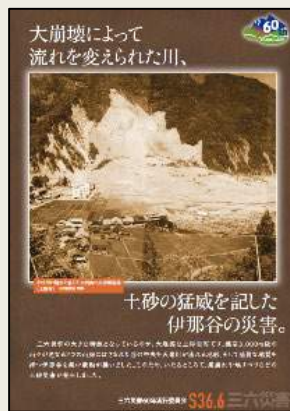
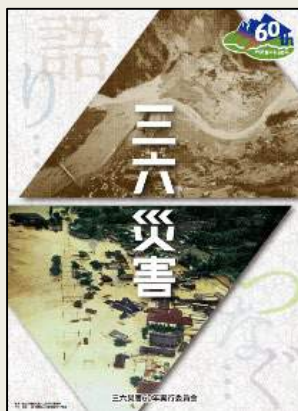
【ビデオレター】
三六災害当時について、体験
談を語っていただきました。
令和3年6月25日(金) 公開



【三六災害60年パネル】

令和3年6月、三六災害から60年の節目を迎えるにあたり、災害を風化させず、教訓として伝承しつつ、水害、土砂災害に備えた地域づくりを目指すための啓発活動を目的に製作しました。

令和3年6月25日（金）公開



※三六災害60年パネルは、天竜川上流河川事務所ホームページにある三六災害60年特設ページから、誰でも自由にダウンロードして活用していただくことができます。

災害教訓を踏まえた国土地理院の取組

2018年（平成30年）西日本豪雨災害では過去の教訓が生かされず、小屋浦地区では避難勧告が出されて2時間後までの避難率はわずか1.9%しかありませんでした。

- ◆ 西日本豪雨災害からの教訓を受け、国土地理院では令和元年度から過去の自然災害に関する石碑やモニュメント等を「自然災害伝承碑」として地形図やWeb地図に掲載しています。
- ◆ 「自然災害伝承碑」は当時の被災状況を伝えると同時に、被災場所に建てられていることが多く、それらを地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待されます。



「自然災害伝承碑」とは？

過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄（災害の様相や被害の状況など）が記載されている石碑やモニュメント。

「自然災害伝承碑」の例

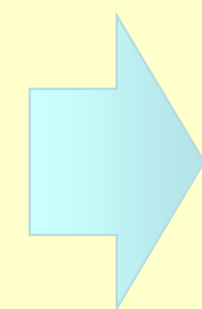


概要	
碑名	復興記念
災害名	昭和36年 梅雨前線豪雨 〔三六災害〕 〔1961年6月〕
災害種類	洪水・土砂災害
建立年	1965
所在地	長野県下伊那郡松川町元 大島(松川町役場)
伝承内容	昭和36年(1961)6月25日 より降り続いた梅雨前線 による集中豪雨により山 崩れが連続、各河川は急 激に増水し氾濫した。松 川町の被害は死者7名、重 軽症者41名、田畑の流失 埋没約76ha、流失半壊家 屋59戸、床上床下浸水 995戸などに及んだ。

ID:20402-001

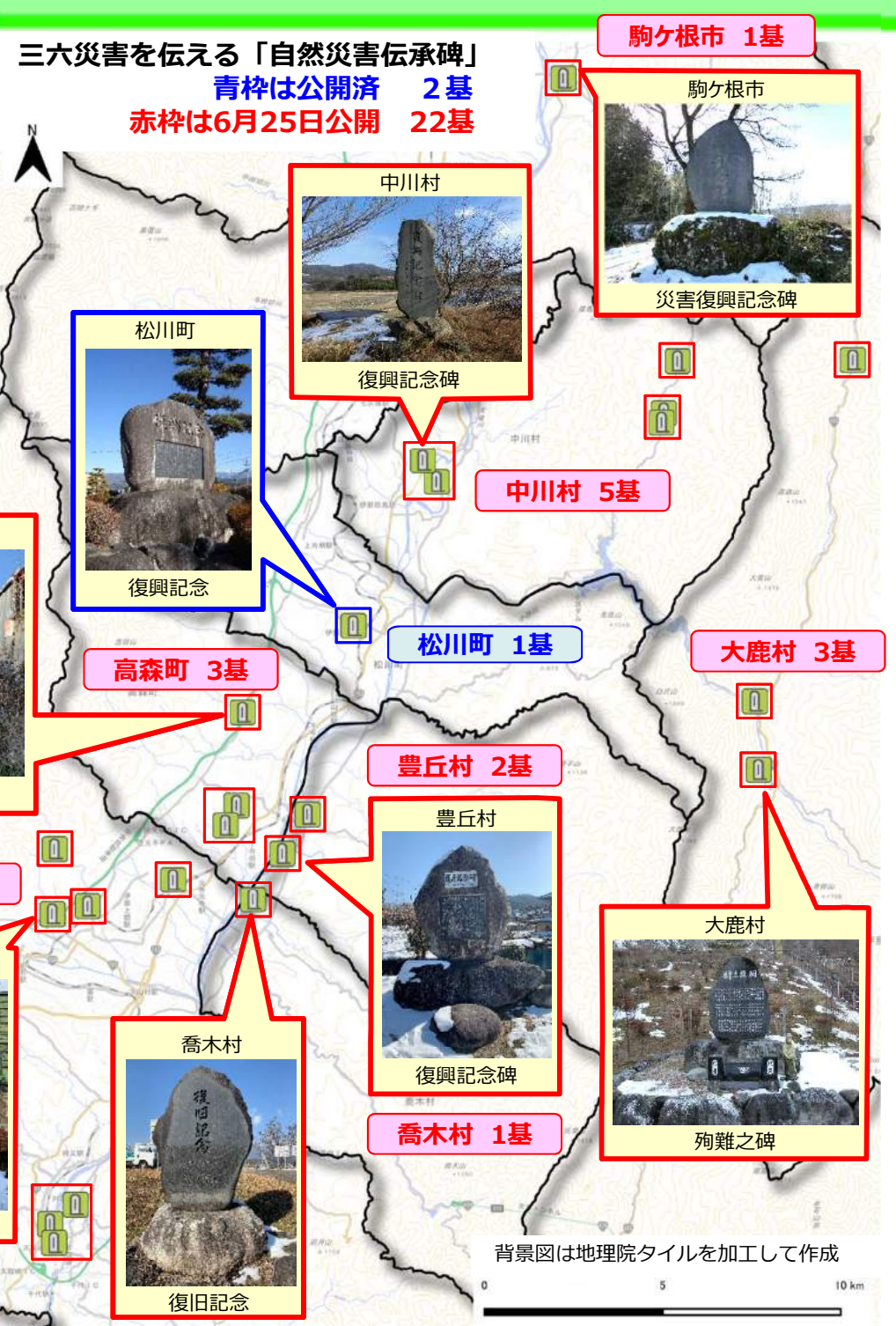
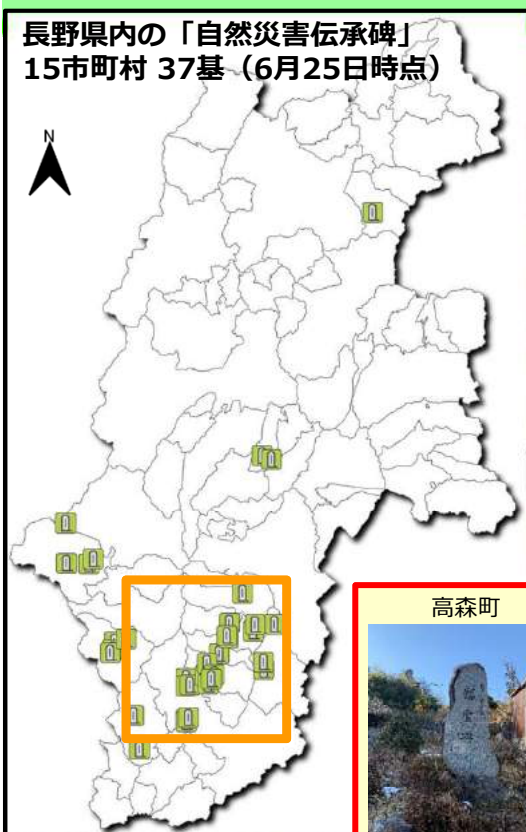
後には判明したところによれば死者七名、重軽傷者四一名、田畑の流失埋没七六町、余水路の埋没、流決潰一八三箇所、道路橋梁の流決潰一九五箇所、流失半壊家屋五九戸、床上床下浸水九九五戸に及び被害総額は実に十数億、余円の巨額に達す大災害を被ったのである。

「昭和三十六年六月二十五日より降り続いた梅雨前線による雨は空前の集中豪雨となり、二十七日まで僅か三日間の降雨量は実に五八〇ミリに及んだ。このために山崩れが連続、各河川は急激に増水し氾濫した。地域住民は消防団の協力を得て必死に防災に努めたが、自然の猛威には抗する能わず、道路は決潰し、橋は落ち、交通は寸断され、電灯は消え、通信機関は絶たれ、全く暗黒の日が続き、孤立の状態となった。」



碑文を150字程度に要約して伝承内容として公開

昭和36年(1961)6月25日より降り続いた梅雨前線による集中豪雨により山崩れが連続、各河川は急激に増水し氾濫した。松川町の被害は死者7名、重軽症者41名、田畑の流失埋没約76ha、流失半壊家屋59戸、床上床下浸水995戸などに及んだ。

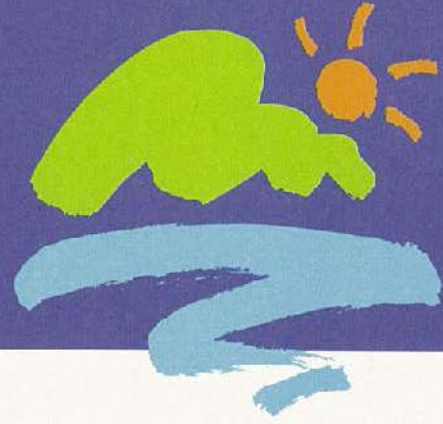


● 三六災害60年実行委員会・関係自治体と連携して取組を進め、**6月25日から新たに7市町村22基の三六災害を伝える「自然災害伝承碑」をウェブ地図「地理院地図」に追加して公開しました。**

※自然災害伝承碑につきましては、以下のウェブサイトをご覧ください。
「自然災害伝承碑」 <https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi.html>

- 三六災害を伝える「自然災害伝承碑」は、長野県以外では、岐阜県中津川市1基、静岡県沼津市1基を既に公開しています。
- 三六災害も含めた長野県内の「自然災害伝承碑」の全体公開数は、**15市町村 37基**となります。
- 今後も三六災害を伝える「自然災害伝承碑」について、関係自治体と連携して調査を進めて参ります。

国土交通省 | 天竜川上流河川事務所



DATE: 令和 3年 6月 23日

三六災害を振り返る、60年の節目に・・・

三六災害慰霊献花式のお知らせ

【概要】 昭和36年(1961年)6月29日に長野県下伊那郡大鹿村で発生した大西山の大崩壊では、流出下土砂により39戸の家屋を破壊し42名もの犠牲者をだしました。また、当時の小渋川砂防出張所の職員6名も崩壊した土砂に巻き込まれ犠牲となっております。

例年6月に、殉職した職員とこの災害で犠牲になられた方々のご冥福を祈り、当時の出張所敷地跡に建立された慰霊碑と大西山公園内の大鹿村慰霊碑に、献花・焼香を行っています。今回三六災害から60年の節目の献花式でございますので、ご案内申し上げます。

【日時】 令和3年6月28日(月) 10時～11時

※小雨決行ですが、天候等により急遽変更となる場合がございます。

【場所】 長野県下伊那郡大鹿村大河原地先 慰霊碑前(別添地図参照)

- 【次第】
- 10:00 - 開式の辞、概要説明
 - 10:05 - 事務所長挨拶
 - 10:10 - 大鹿村挨拶
 - 10:15 - 献花・焼香
 - 10:30 - 閉式の辞
 - 大西山公園内 大鹿村慰霊碑へ移動
 - 10:40 - 献花・焼香
 - 11:00 - 終了・解散



【報道機関の皆様へ】

慰霊碑付近に駐車場はございません。小渋川砂防出張所へ車を停めてお越しください。

(小渋川砂防出張所所在地 長野県下伊那郡大鹿村大字大河原892)



笑顔、きらきら、天竜川。